岡山県立博物館だより

54号
10月1日
2000

江戸時代の教育と閑谷学校

―平成12年度特別展の開催にあたって―

館長 葛原克人

ミレニアム（千年紀）の年は、折しも岡山県立博物館の開館30周年目にあたり、また庶民教育の殿堂として名高い閑谷学校の開学330年という、節目でもあります。この記念すべき年にあたって、当館では「江戸時代の教育と閑谷学校」のテーマのもとに、特別展を開催いたします。

閑谷学校は、寛文10年（1670）岡山藩主池田光政によって創学された全国最古の学問所の一つです。しかも本来、藩学校・郡中手習所とともに三位一体となって、領内に限らず近隣にまで門戸を開き、広く子弟の知育と徳育を高めようと企図されたのであります。

ここに、閑谷学校の教育内容やその変遷をひもとき、合わせて他藩の藩校や郷学を紹介・比較しながら江戸時代における教育の在り方に光をあて、その特質を振り返ります。こうして、今日かかえる教育問題と対比しつつ、将来の方向性を模索する機会が生まれるならばこれに過ぎる喜びはありません。

末筆ながら、貴重な資料を出品いただいた所蔵者の方々、およびご協力・ご教示を惜しまれなかった関係各位に対し、心から厚くお礼申し上げます。

平成12年度特別展

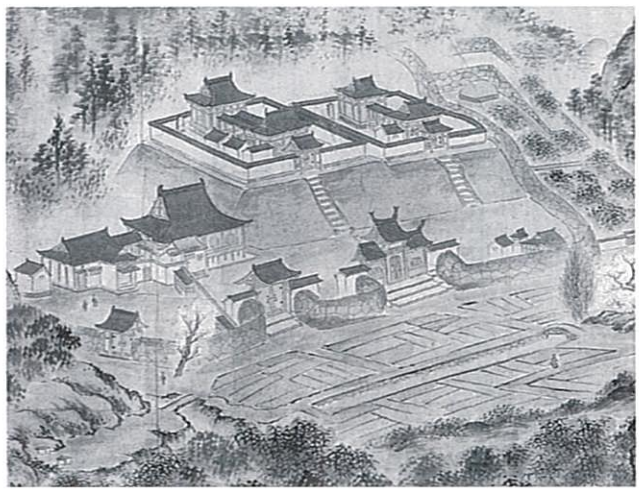
江戸時代の教育と閑谷学校

平成12年10月６日（金）～11月５日（日）

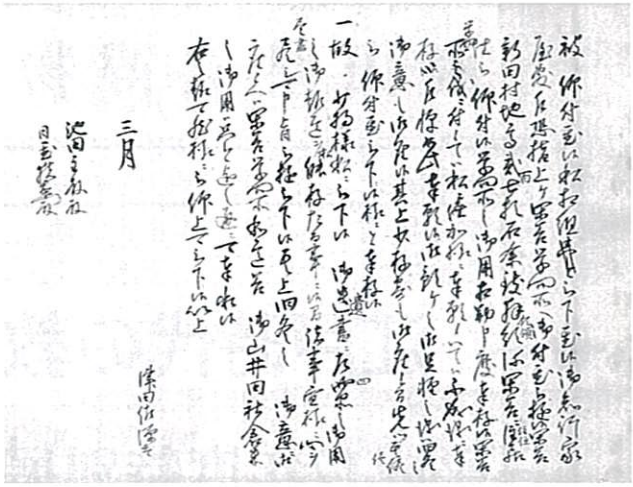
江戸時代の教育では、単に学問だけでなく、人としてどうあるべきか、何をなすべきか、例えば、親子や隣人との関係、倹約とはどうすることか、勤勉とは何か、などが繰り返し教えられていたように思われます。もちろん、それは儒教の教えや当時の支配者に都合のよい部分が多分にあったとは思いますが、現代の社会を振り返った時に、今の日本人、あるいは社会が忘れかけていること、つまり、学校教育だけではなく、家庭や社会でもなされなければならない教育も存在していたのではないでしょうか。こうした視点をもって、今回の展覧会をご覧いただければ幸いです。

（１）岡山藩の教育

閑谷学校は、初代岡山藩主池田光政がつくらせたことは、ご存じのことと思います。光政は、初め岡山城内に石山仮学館を設けましたが、それが手狭になったため、寛文９年（1669）藩校（現岡山市蕃山町）を設置しました。さらに、光政は家臣だけでなく、領民の教化の必要性を感じ、領内123箇所に手習所を設置し、そして、寛文10年（1670）閑谷学校を創設したのです。光政は教育に熱心で、ずいぶんと勉強好きだったようです。しかし、次の藩主綱政は、藩の財政窮乏を理由に学校を廃止しようと、隠居した父光政と対立しました。光政としては、自分が熱意をもって進めた事業が中断するとなれば、尋常な気分ではなかったことでしょう。手習所は廃止しても仕方ないが閑谷学校だけはつぶしてはならない、金がないなら隠居料から出してもいいと、強く主張しました。この親子の確執をうかがうことのできる光政・綱政がお互いにやりとりした手紙も含め、岡山藩校や閑谷学校の歴史に欠かせない資料を一堂に展示し、紹介します。



閑谷学図（部分）　　閑谷学校



津田永忠書状草案　　岡山後楽園

（２）岡山藩の教育をめぐる人々

光政は閑谷学校に最も深くかかわった人ですが、ほかにも多くの人物が閑谷学校に関係しています。まずは、閑谷学校の造営にあたった津田永忠ですが、彼は学校奉行に任ぜられ、藩校、手習所、そして閑谷学校と、岡山藩の教育行政に多大なる功績を残した人物です。ここでは、光政の遺言に従い、閑谷学校永続のため一族をあげて閑谷に移住し、学校の経営に専念する旨、綱政に対して願い出た彼の書状などを紹介します。卒業生では、武元登々庵、君立の兄弟が知られていますが、特に、

津和野城下図（部分）　　津和野町教育委員会

弟の君立は閑谷学校の教授を勤めた人物でもあります。また、備中松山藩の藩政改革で有名な山田方谷も教授を勤めています。さらに、有名な文人では、備後の菅茶山、尊王論を説いた頼山陽らが閑谷を訪問しています。彼ら閑谷学校と岡山藩の教育にかかわった人々をとりあげ、紹介します。

（3）美作・備中諸地域の学校

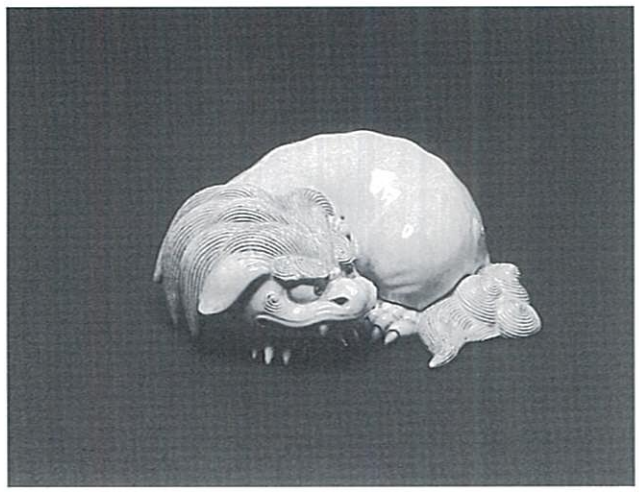
岡山県立博物館では、この展覧会を機会に、閑谷学校だけではなく、岡山県内の藩校や郷学教諭所の資料についても調査を行いました。例えば、倉敷にも幕末に明倫館という学校が、現在のアイビースクェアの辺りにありました。ほかには、津山の修道館、高梁の有終館、真備の敬学館、総社の集義館、久世の典学館、笠岡の敬業館、井原の興譲館などがあり、その中には、現在の小学校や高等学校の前身であった学校もあります。ここでは県内に存在した学校の関係資料を紹介します。身近な地域の昔の学校がどのようなものだったのか、勉強できる機会かと思います。郷土学習の一環としてご覧ください。

（4）幕府と他地域の学校

全国に目を広げますと、江戸時代は、各地に様々な種類の、様々な階層を対象とした学校が創られた時代だということがわかります。ここでは幕府の学校やほかの地域の学校をとりあげました。林羅山で有名な湯島聖堂は、後に昌平坂学問所とも呼ばれて、幕府の学問所になりました。大坂の懐徳堂は町人出資の学校として有名です。ほかにも、萩藩の明倫館や津和野藩の養老館、鹿児島藩の造士館など各地の藩校にかかわる資料を紹介します。

（5）閑谷焼

閑谷学校の屋根は閑谷焼の瓦で葺かれています。講堂の美しさを引き立たせている最大のパーツです。元禄13年（1700）の銘の入る瓦は、講堂の附として国宝指定されています。ここでは瓦はもちろん、代表的な閑谷焼の置物も紹介します。閑谷焼には２種類あり、一方は備前焼同様、焼き締め陶で、瓦はこのタイプです。もう一方は釉薬を使ったもので、閑谷焼の置物はこちらのタイプです。閑谷学校の瓦と置物の閑谷焼は、ずいぶん趣が違っていると思います。ほかに、備前焼製の閑谷学校講堂など珍しい資料も紹介します。



閑谷焼 獅子置物　　岡山県立博物館

主な展示資料

（1）岡山藩の教育

花園会約　岡山市 林原美術館
岡山学校図 宝暦4年(1754)改　岡山市立中央図書館
備前岡山郷学図 宝暦4年(1754)改　名古屋市蓬左文庫
孝経 中江藤樹手筆版本　個　人
備陽郡中手習所并小子之記　岡山大学附属図書館
閑谷学図　閑谷学校
備前静谷学校略図　山口県文書館
学校之御相談控并御返答　岡山大学附属図書館
閑谷学校入学届・退房願　個　人
閑谷学校蔵書 十三経注疏 礼記　閑谷学校

（2）岡山藩の教育をめぐる人々

大学・中庸・論語要語解 池田光政筆写　岡山市 林原美術館
池田治政肖像画　岡山市 林原美術館
熊沢蕃山肖像画　滋賀県 藤樹書院
熊沢蕃山書状　吉永町美術館
津田永忠書状　個　人
津田永忠書状　岡山後楽園
武元登々庵肖像画 西圭斎筆　吉永町美術館
武元登々庵門人録　閑谷学校
武元君立肖像画　吉永町美術館
山田方谷肖像画 小倉魚禾筆　高梁方谷会
長瀬塾図　高梁市立中井小学校
菅茶山肖像画 岡本花亭賛　広島県立歴史博物館
菅茶山書幅　広島県 菅茶山記念館
頼山陽肖像画 大雅堂義亮筆　広島県 福山誠之館同窓会
黄葉亭記 頼春水・浦上春琴・頼山陽筆　閑谷学校

（3）美作・備中諸地域の学校

学問所絵図　津山郷土博物館
藩主松平慶倫直書　個　人
敬学館蔵書印　真備町ふるさと歴史館
浦池九渕墓誌拓本　真備町ふるさと歴史館
伝有終館鬼瓦　高梁市教育委員会
有終館孔子木主・燭台・香炉　高梁方谷会
典学館規条　個　人
久世条教　岡山市立中央図書館
興譲館図 小西皆雲筆　井原市 興譲館高等学校
興譲館間取り図案　井原市木之子公民館
教諭所開講の触書　倉敷市市史編さん室
孫子活説 明倫館蔵書印　倉敷市立中央図書館

（4）幕府と他地域の学校

孔子画像　東京都 斯文会
天命図説 林羅山著　東京大学史料編纂所
聖堂之絵図　国立公文書館内閣文庫
津和野城下図　島根県 津和野町教育委員会
銅造孔子像　島根県 津和野町教育委員会
長藩学校之図　山口県文書館
生徒御試次第　山口県 萩市郷土博物館
明倫館文学寮 汁碗・萩焼茶碗　山口県 萩市郷土博物館
中井竹山肖像画　大阪大学附属図書館
定 中井竹山筆　大阪大学附属図書館

（5）閑谷焼

閑谷学校鯱　閑谷学校
閑谷学校鬼瓦　閑谷学校
閑谷焼 獅子置物　岡山県立博物館
閑谷焼 獅子香合　岡山県立美術館
閑谷焼 茶挽き坊主　岡山市 林原美術館

記念講演会（聴講無料）

日時：10月9日（月）　13:30～15:00
場所：岡山県立博物館講堂
講師：岡山大学教授　倉地克直氏
演題：「岡山藩の教育」

岡山県立博物館だより　No.54
発行日　平成12年10月1日
発行者　岡山県立博物館
館長　葛原　克人
岡山市後楽園1－5
☎(086)272－1149
ホームページアドレス
http://www.pref.okayama.jp/kyoiku/kenhaku/hakubu.htm